

助言・情報提供

情報提供 「学校保健の課題とその対応」

提供・助言者 北海道教育庁学校教育局 健康・体育課 健康・体育指導係 係長 篠原 弥智 氏

事務局連絡

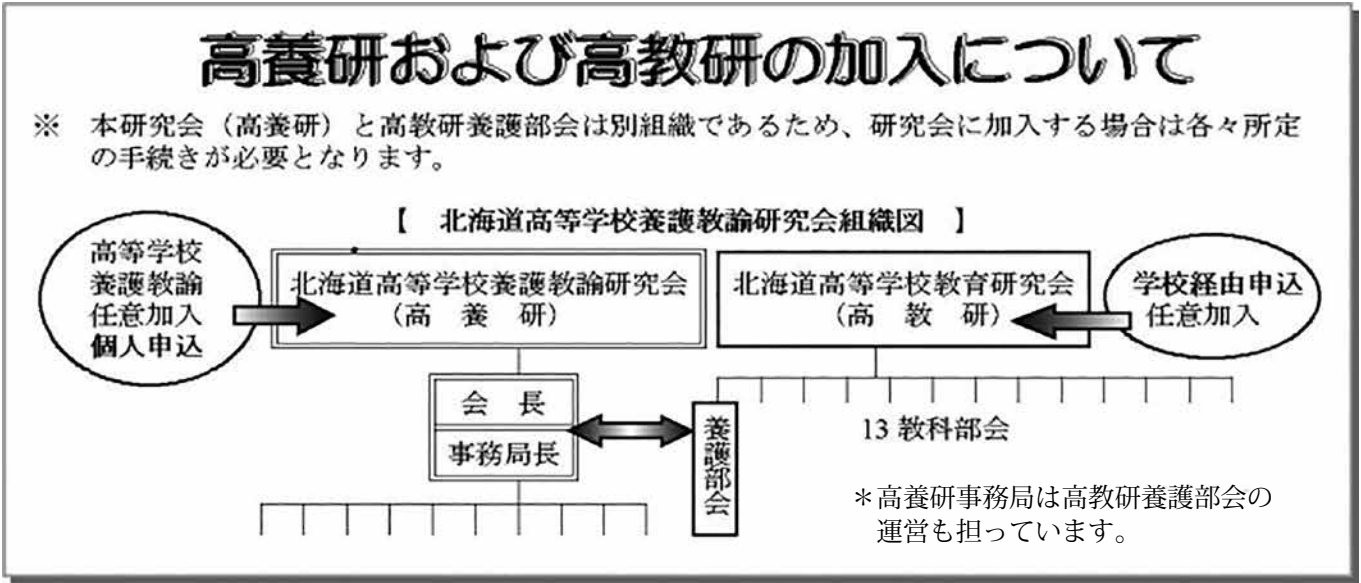
○会員になって一緒に学びませんか。

高養研・高教研養護部会の会員になって、一緒に学びませんか？
会の活性化のために、会員を募集しています。入会・参加申込書は高養研のWEBページからダウンロードできます。
また、研究会の様子などを掲載しておりますので、どうぞご覧ください。

【アドレス】 <http://koyoken.sakura.ne.jp/myks/hyousi.html>

北海道教育委員会、北海道高等学校教育研究会、全国養護教諭連絡協議会、文部科学省、日本学校保健会のホームページへもリンクできます。

○高養研と高教研養護部会は別組織のため、加入手続きが違います。



*高教研養護部会への入会は各学校でとりまとめをしています。ぜひ事前に会員登録をして、冬に開催される養護部会への参加もよろしくお願いいたします。

役員名簿

令和6年度北海道高等学校養護教諭研究会 役員名簿

会 長	三村 素道	北海道札幌月寒高等学校	事務局員	山田 美香	北海道札幌手稲高等学校
副 会 長	堀川 智恵	北海道札幌東高等学校	事務局員	兒玉 亜希	北海道野幌高等学校
事務局長	岡 香	北海道札幌月寒高等学校	事務局員	中道真由美	北海道石狩翔陽高等学校
会 計	登 祐希	北海道札幌丘珠高等学校	事務局員	滝川 智子	北海道札幌北高等学校
事務局員	加賀 陽子	北海道札幌啓成高等学校	顧 問	田村 信明	北海道札幌英藍高等学校

令和6年度北海道高等学校養護教諭研究会 地区幹事名簿

石 狩	橋詰 絵夢	北海道札幌英藍高等学校	オホーツク	石川かおり	北海道遠軽高等学校
道 南	内山 純子	北海道大野農業高等学校	釧 根	岡田 菜摘	北海道釧路湖陵高等学校
後 志	兒玉 沙綾	北海道小樽水産高等学校	十 勝	中山 知美	北海道帯広三条高等学校
空 知	橋本ひなの	北海道新十津川農業高等学校	日 胆	伴野 美穂	北海道室蘭栄高等学校
道 北	武田 美樹	北海道旭川北高等学校			

発 行 北海道高等学校養護教諭研究会
事務局 北海道札幌月寒高等学校

〒062-0051 札幌市豊平区月寒東1条3丁目
TEL 011-851-3113 FAX 011-851-3112
<http://koyoken.sakura.ne.jp/myks/hyousi.html>



北海道高等学校養護教諭研究会

会 長 三 村 素 道
(北海道札幌月寒高等学校長)

今年度より、渡邊祐美子前会長の後を引き継ぎ、北海道高等学校養護教諭研究会（高養研）の会長を務めることとなりました。40年近い歴史を持つ高養研の一層の充実、発展に向けて微力ながら尽力させていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

早いもので、今年度も既に1か月が過ぎようとしています。各学校では、健康診断をはじめ各種検査等に忙しい日々であったかと思います。養護教諭の皆様におかれましては、本当にお疲れさまでした。これからも、生徒たちの心身の健康を支えていただきたく、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、以前、『いのちをいただく』の著者、助産師の内田美智子さんの『あなたが大切なの』というお話に触れたことがあり、非常に心に残っているのでここで紹介させていただきます。

30年以上もお産の現場にいる。そこは「おめでた」ばかりではなかった。妊娠が分かってから女性は約10ヶ月の月日を経ながら、少しずつ「母親になる」という決意をしていく。それは自分の命を賭けて産むという決意だ。わずか50年前、約2000人の母親がお産のときに命を落としていた。内田さんが助産師になった30年前は300人、一昨年でも35人の母親が自らの命と引き換えに子どもを産んだ。死産もある。ある妊婦は10ヶ月目に入って胎動がしなくなったことに気が付いた。診察の結果、胎児は亡くなっていた。でも、産まなければならない。普通、お産のとき、「頑張って。もうすぐ元気な赤ちゃんに会えるからね」と、妊婦を励ますが、死産のときには掛ける言葉がないという。泣かない子の代わりに、母親の泣

き声が分娩室に響き渡る。その母親は内田さんに「一晩だけこの子を抱いて寝たい」と言った。真夜中、看護師が病室を見回ると、母親はベッドに座って子どもを抱いていた。「大丈夫ですか？」と声を掛けた看護師に、母親は、「今、お乳をあげていたんですよ」と言った。見ると、母親は乳首から滲み出てくる乳を指に付けて、子どもの口元に移していた。「このおっぱいをどんなにか、この子に飲ませたかったことか。泣かない子でも、その子の母親でありたいと思うのが母親なんです。何千年の時を経ても母親は母親であり続けるんです。」と内田さん。父親・母親世代に内田さんは、「子育ては時間が取られるなんて思わないで。育てられるだけでも幸せなことなのよ」と語り、学校に呼ばれたときには、「お母さんは命賭けであなただちを産んだの。だからいじめないで。死なないで」と子どもたちに訴える。「命が大切なじゃない。あなたが大切なの」と。

2023年の自殺者数（暫定値）の統計で、小中高生は507人で過去最多だった前年の514人（確定値）に次いで過去2番目に多かったことが明らかになりました。家庭においても、学校においても、生徒たちに「あなたが大切なの」とはつきりと伝えることができるのでしょうか。伝えられた生徒たちはきっと命の大切さを知って、自分自身を大切にするようになり、そして、自分の周りにいる人たちも大切にするようになっていくのでしょう。迷いの多い時期の生徒たちに日々関わる我々ですから、しっかりと心に留めておきたいものです。

それでは、今年度も高養研に対する皆様のご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

北海道高等学校養護教諭研究会第39回研究協議会のご案内

【開催日】 令和6年7月30日(火)・31日(水)
【日程】

7/30 (火)	12:30 受付	13:00 開会式	13:20 講演1	15:20 地区幹事会	15:45	7/31 (水)	9:15 受付	9:30 総会	9:50 講演2	11:50 昼食	13:10 研究発表	14:30 情報提供	15:20 閉会式
-------------	----------	-----------	-----------	-------------	-------	-------------	---------	---------	----------	----------	------------	------------	-----------

【場所】 かでる2・7 820研修室（北海道立道民活動センター）
札幌市中央区北2条西7丁目 TEL011-204-5100

【アクセス】 ○JR札幌駅南口：徒歩13分
○地下鉄 さっぽろ駅(10番出口)：徒歩9分
大通駅(2番出口)：徒歩11分
西11丁目駅(4番出口)：徒歩11分
○公共地下歩道(地下歩行空間から北1条地下駐車場連絡口
をお通りください)1番出口：徒歩4分
※車でのご来場はご遠慮ください。

【昼食】 各自でご準備ください。食事は研修室でできます。

【参加対象】 北海道高等学校養護教諭研究会会員
※会場の収容人数の都合上、事前に申し込まれた会員のみの参加となります。

【連絡】 ・講演1のみオンラインとなります。会場で配信しますので、会場にお越しください。
・講演2は実技を行いますので、考慮した服装でお越しください。

講演1

演題 「不登校—子どものころと親の支援—」

講師 奈良女子大学 研究院 生活環境科学系 臨床心理学領域 教授

伊藤 美奈子 氏

＜講演要旨＞

近年急増している不登校について、とくに国の方針の変遷に注目しつつ、日本社会で話題になり始めてからの60年余りの歴史を眺めてみたい。その上で近年、不登校に大きな影響を与えた教育機会確保法を概説し、不登校に対する国の姿勢を確認したい。また、不登校のきっかけに関する文科省の調査結果を3つ並べることで、調査対象者によっても大きな違いがあることを確認すると同時に、不登校をアセスメントすることの難しさを述べる。こうした背景に対し、不登校の子ども自身はどんな思いを抱え、どんな状況にあるのかについて、調査結果と、心理臨床の場で出会う不登校のケースや当事者のエピソードを交えつつ解説する。さらには、不登校の子どもを支える人である保護者に注目し、その保護者の気持ちを理解するとともに、子どもを支える人を支えることの重要性について述べる。最後に、不登校支援の今後に向けて考えていることをまとめておきたい。

＜プロフィール＞

1984年3月、京都大学文学部国文科卒業後、大阪の私立東大谷高等学校に教諭として着任（国語科）。その後、在職中の1990年3月、大阪教育大学大学院教育学研究科（学校教育学専攻）修士課程修了。1990年4月、京都大学大学院教育学研究科（臨床教育学専攻）修士課程入学に伴い、上記高校を退職。1995年3月、同博士後期課程学修認定（所定の単位を修得）。1996年5月、博士（教育学）取得。1995年4月より2年間、南山大学文学部専任講師を経て、1997年4月よりお茶の水女子大学大学院人間文化研究科・助教授。2003年4月、慶應義塾大学教職課程センター助教授、同教授を経て、2013年4月より現職。

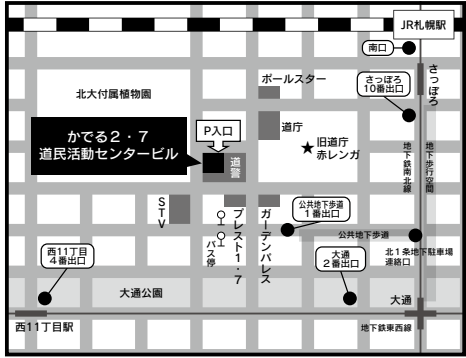
＜専門分野＞臨床心理学（学校臨床）と発達心理学（思春期以降の発達）

＜資格＞臨床心理士（4034）、公認心理師（5473）、教員免許（国語科中学・高校）

＜主な業績＞

単著 『スクールカウンセラーの仕事』岩波アクティブ新書 2002年、『個人志向性・社会志向性から見た人格形成に関する研究』北大路書房 1997年、『思春期の心さがしと学びの現場』北樹出版 2000年、『不登校 その心もようと支援の実践』金子書房 2009年

編著 『思春期・青年期臨床心理学』朝倉書店 2006年、『ストレスに負けないころを育てる学校の取り組み』教育開発研究所 2005年、『不登校とその親へのカウンセリング』ぎょうせい（共編）2004年、『学校臨床心理学・入門』有斐閣（平野直己氏との共編）2003年、『傷つけ傷つく青少年の心』北大路書房（宮下一博氏との共編）2003年、『もうひとつの学校をもとめて—フリースクール・チャムで出会った不登



校の子どもたち』ナカニシヤ出版（本多利子氏との共編著）2000年、『学校臨床心理学』サイエンス社（相馬誠一先生との共編著）2010年、『よくわかる教育相談』ミネルヴァ書房（春日井敏之氏との共編著）2011年、『いのちと死の授業全6巻DVD』丸善出版（相馬誠一先生と監修・編集）2017年、『子どもたちに“いのちと死”の授業を』学事出版（相馬誠一先生との共編著）2020年、『不登校の理解と支援のためのハンドブック』ミネルヴァ書房（編著）2022年

監修 『こころのルール』池田書店 2020年、『新・心が元気になる本（全4巻）』あかね書房 2022年、『「学校」って何だ？—不登校について知る本』GAKKEN 2023年

＜委員等＞

東京都「いじめ対策推進委員会」委員

文部科学省「不登校生徒に関する追跡調査研究会」委員

文部科学省「『児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査』の見直しに関する調査研究」協力者

文部科学省「いじめ対策等生徒指導推進事業審査委員会」委員（現在に至る）

文部科学省「不登校に関する調査研究協力者委員」（2015年2月～2019年5月）

奈良県「私立学校審議会委員」（2015年7月～現在に至る）

講演2

演題 「応急処置アップデート」

講師 独立行政法人 国立病院機構 旭川医療センター 臨床検査科 部長
玉川 進 氏

＜講演要旨＞

お呼びいただきありがとうございます。高養研での講演は13年ぶりとなります。

私の講演では、保健室で日常遭遇する外傷や内因性疾患への対応を解説します。熱中症、捻挫の対処や抗痙攣剤プロクロムの導入など13年前と大きく変わった事柄を中心に取り上げます。

あらかじめ参加者の皆さんから質問をいただき、それに回答する形で講演を進めていきますので、私に聞いてみたいことがあれば高養研へ伝えてください。参加者全員が満足できる講演にしますので楽しみにしててください。

＜プロフィール＞

1986年 旭川医科大学卒業。旭川医科大学麻酔学講座入局

1987年 自治医科大学集中治療部

1988年 旭川医科大学麻酔学講座。その後市立稚内病院、留萌市立総合病院、旭川厚生病院などで勤務

2000年 旭川医科大学第一病理学

2010年 道北病院（現 旭川医療センター）病理診断科。現在に至る

＜資格＞医師、医学博士、病理専門医、臨床細胞学会認定医

＜著書＞

「学校の応急処置がよくわかる第二版」（東山書房2020年）

「(改定) 養護教諭のための診断学 内科編」（東山書房2021年）

「(改定) 養護教諭のための診断学 外科編」（東山書房2023年）ほか

研究発表

主題 「生徒健康診断等の業務の見直し～ICT活用による効率化～」

発表者 北海道遠軽高等学校 養護教諭 石川 かおり 氏

＜研究発表要旨＞

オホーツク管内は、近隣校との地理的な距離が遠く、顔を合わせて情報交換等を行うことが難しいことから、ZoomやGoogleなどのICTを活用した養護教諭の交流から始まり、①日々の業務が多岐にわたっていること、②各種検査など、年度始めに事務作業が膨大であること、③多様な生徒が入学することにより、生徒対応が増えていることなど、課題が明確になりました。

課題解決に向けて、ICT活用は避けては通れないものと考えますが、ICT活用に自信がなかったり、これまでの事務処理の方法が早く感じたりするなど、不安や新たな多忙感が予想されます。ICT活用のスキルアップを図ることが出来れば、上記の課題解決に加え、養護教諭のストレスを減らし心の余裕を持つことができるとともに、養護教諭の本来の役割である「子どもたちの健康課題に対する個別的な対応を担う」ことになると考えました。こうしたことを踏まえ、健康診断の業務をゼロベースから見直し、ICT活用の取組として、Googleフォームを活用した研究を実施しました。各学校を取り巻く環境等は様々ですが、この研究発表の取組が、少しでも同じような課題や困り感を持っている会員の皆さまのヒントになれば幸いです。